

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100583		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉二の宮		
所在地	静岡県富士宮市北町14-5		
自己評価作成日	令和2年10月11日	評価結果市町村受理日	令和3年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_original_index=true&amp;JigyosyoCd=2272100583-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_original_index=true&amp;JigyosyoCd=2272100583-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年11月3日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湖山医療福祉グループの理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を常に意識し、お客様とご家族様の思いに寄り添ったケアを行っています。職員は「こやまケア」の行動指針に則り優しい声掛けと対応ができ、お客様は笑顔があふれ生き生きと毎日を過ごしています。医療面では、主治医として富士在宅診療所の往診時に多様な指示アドバイスをもらい対応しています。また、訪問看護師との連携で異常の早期発見や早い対応ができ、安心した生活を送っています。職員は日々の業務をISO9001に沿って実施しており、法人研修・施設内研修も含め、サービスの質の向上に積極的に取り組んでおります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

元々家族、利用者、職員が気持ちの一つとしてきた事業所ですが、「できない」ではなく「できることをみつけよう」との声も力強い新任の所長を中心に、管理者と副主任共に若々しい男性が3本の矢のように集結して頼もしい限りです。所長は真っ先に市役所窓口へ挨拶に出向き、担当者とメールアドレス交換など心強い関係をつくり、コロナ対策の一環でおしぼりは使い捨てに替え、外出が減った代替としてテレビを買い替えてユーチューブで昭和歌謡や時代劇鑑賞ができるよう配し、また協力医も利用者の話に傾聴して30分余も超過したり、爪を切ってくださいことも厭わない赤ひげ先生を迎え入れており、短い間の躍進に目を見張ります。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	湖山医療福祉グループ理念・行動指針・こやまケア行動指針GH理念を常に頭に置いて業務を行っています。	法人理念と行動指針の下、年度はじめに目標設定をおこなっています。達成できるよう部門目標は毎月、事業所では四半期、個人は上期・下期で振り返り、PDCAサイクルに乗せています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二の宮区の夏祭り、どんどん焼きへの参加。富士宮秋祭りでは二の宮区の山車が来て交流会を開いておりましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で行えていません。	二の宮区の祭りでは一員として加わり、また記念写真が玄関に何枚も連なっていますが、現在は中止されています。1点、携帯電話を持つ利用者が地域の本屋さんへ注文するつきあいは続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の富士宮東高校・富士特別支援学校の生徒の実習を受け入れ、職種としての考え方や技術を伝えていましたが、新型コロナウイルスの影響で今年度は行えていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年では2か月に一回区長様・民生委員様・ご家族様・市役所担当職員で意見交換を行っています。地域行事のお知らせ、参加の仕方アドバイス等活発に話し合いを行っています。今年度は新型コロナウイルスの影響で書面での開催となっております。	奇数月に隔月開催をおこなっていた運営推進会議は3月・5月・7月・9月を書面開催としています。2ヶ月分の活動内容(行事や研修)とともに、ブログの案内などもおこない、質問も求めています。	メンバーには2ヶ月分の活動内容を書面にまとめたうえで届け、文面上で質問の受付を明示していますが、今後は意見を募る(FAX返信用紙等同封)ことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて二の宮での現状や取り組みを説明しご指導いただいております。また、富士宮市小規模ホーム会の研修や運動会にも参加しております。今年度は新型コロナウイルスの影響で行えていません。	新任の所長は真っ先に市役所窓口に挨拶に出向き、「直接メールで教えてもらえたらありがたい…」とお願いし、メールアドレスの交換が叶っており、コロナ禍にあって心強い関係をつくっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを継続しており玄関も夜間以外は施錠しておりません。スピーチロックにも細心の注意を払っております。また2か月に1回勉強会を行っています。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、現場における課題を解決する場として確立させています。家族からも「職員と良い関係ができています」「敬った対応がある」と評価され、外部者から見ても職員の丁寧な言動に好感がもたれます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修には必ず参加をし、職員間でも指摘できるように注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料は事務所にありますが、理解は十分ではありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容を書面を見ながら説明を行い、不明点や不安な点等必ず声をかけて確認しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人統一でアンケートを実施しています。回収率を上げるために方法を検討したり、法人への回答で率直な意見が聞けるようにしています。また、意見には対応策を検討し取り組んでいます。	居室担当者がベストショットを含む「便り」を毎月家族へ送っています。法人アンケートでは家族全員の提出となるようお願いし、また結果は概ね良好なもの、「少しでも%を上げていこう」意気盛んです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議・職員全体会議・部署会議を行い、職員が意見を言いやすい環境を作っております。参加できない職員には事前に意見を聞いて対応しています。	介護度5の利用者もいて過重労働となりがちですが、管理者や副主任が力加減を探りながら「ここは集中しよう」「今は休もう」と労わっていて、職員の気持ちが一つにまとまっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標シート・実務評価表を使用し年に2回の面談を行い賞与・昇給に反映しています。有給の他、リフレッシュ休暇、ハッピー休暇が付与されています。二の宮独自の計画休暇を取り入れ、有給消化と職員のリフレッシュを図っています。今年度は計画休暇の実施は未定です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営会議にて職員の育成状況を確認し、法人内研修参加の計画を立てています。研修アンケートで有効性を確認しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士宮市介護保険事業者連絡会に加入し、小規模ホーム部会の研修や運動会、新年会等で他事業所の職員との交流や共に学ぶ機会を活用しています。今年度はコロナウイルスの影響で行えていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人様やご家族様から希望や要望の聞き取りを行い、ご入居後はご本人様を観察し声掛けをします。現在併設のデイサービスから移行する方が多く、見慣れた建物と職員の顔がある中で安心して過ごして頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前にご家族様に要望や不安なことを聞き、ご入居後の対応方法を伝え、いつでも協力できることを伝えていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接ご自宅に伺い、ご本人様・ご家族様にお会いし、現状を聞き取り、判定会を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯たたみ等生活の中でできることは一緒に行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新聞や毎月のおたよりで日々の様子を伝えております。年に2回家族会を行っていましたが、コロナウイルスの影響で行えていません。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限は行わずいつでもお知り合いと交流できるようにしています。今年度はコロナの関係で予約制にしており、面会時間も短めになっております。	2階の入り口(踊り場)に椅子をだしたり、相談室を利用して面会ができるよう支援しています。他県にいる家族とは電話の頻度が増していて、手紙と家族写真も届いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大きな声を出してしまう方もいますが、その方の様子を見ながら職員が間に入り関わっています。お手伝いやレク・作業活動など皆で関われる時間を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去されたご家族様からの相談はありませんが、通夜や葬儀に参列しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉での訴えが少ない方が多いので、何気ない言葉や仕草から思いを想像し実現できるように留意していきます。	「なんでも実現させてあげたい」との気持ちから、「自宅に戻りたい」意向には家宅の草取りを一緒におこない、みそ造りが得意な利用者を中心に大豆を煮るところから皆で取り組んだ日もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様からの聞き取りで毎日の生活に繋がられるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを繰り返すことにより、先入観に囚われず現状を把握できるようにしています。また、健康状態には常に気を付け、一人一人がもつ力を大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に3ヶ月に一回部署会議にてお客様のカンファレンスを行い現状を把握し、より良いサービスの提供に努めています。	コロナ禍前は家族にサービス担当者会議に同席してもらいましたが、今は本人の状態を適切に提供することに苦心しています。「ケアポイントシート」に居室担当者は赤で入れる等、連携して介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者が昼間帯、夜勤者が夜間帯の様子や気づき・行動などを記録し、朝夕の申し送り時に報告し、情報共有し日々の介護に生かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様・ご家族様の要望に応じた柔軟な対応ができるよう意識しています。併設のデイサービスとの連携による慰問や季節行事など楽しんで頂けるようにしています。今年度はコロナウイルスの影響で慰問など受け入れていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区の夏祭り・どんど焼きなどに一緒に参加しています。また、ボランティア・地元の幼稚園などの交流があり感謝しています。今年度はコロナウイルスの影響で行えていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2～3週間毎に在宅の主治医が診て下さいます。アドバイスを頂きながら元気に過ごせるように健康面で支援しています。	月2回の訪問診療をおこなう医師の対応が良く、「薬があっているか」「増やそうか」「減らそうか」と利用者を主体としつつも職員の負担も考えての提案があって、心のこもった親身な対応が見られます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師が来訪しお客様の状態を伝え、観察することで、現状を把握しアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はできる限り職員が足を運び、病院関係者に状況を確認しながらスムーズに元の生活に戻れるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・訪問看護師と連携しご家族様と話し合いを行っています。富士在宅診療所の主治医と共に看取り指針を作成し連携を図っています。	看取りは年1名ほどありますが、毎回職員は出勤日でなくとも集まり、着替えをはじめエンゼルケアに尽くし皆でお見送りしています。自然と偲ぶ場となるも、家族にアルバムとデータを渡すなど其々が役割を踏まえた行動ができるようになっていきます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアル・離接マニュアルなどを元に研修を行い備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に数回行っています。通報、消火訓練、発電機の始動等さまざまな場面を想定して行っています。コロナウイルスの影響で消防の立ち合い訓練は行えていません。	防災委員が中心となっておこなう防災訓練は、火災、地震、風水害の各想定で3回実施を年間目標とし、本年はあと2回残っていません。部署会議の中で消火器の使い方のクイズなどをやって意識を高めてもいます。	新任者には初日のオリエンテーションで通報装置と避難経路の説明をおこなうことが定着することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア行動指針に同項目が設けられており、それに伴う行動を心がけています。お一人お一人の歩んできた人生を尊重し声掛けの方法を変えるなど対応を行っております。	内部監査が2ヶ月程前にあり、接遇や尊重関連では「指摘事項なし」です。「本人の好きなときに好きなことをさせてもらってありがたい」「糖尿病の数値がよくなった(娘さんが看護師)」と、家族評価も上々です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるようにお客様に選んで頂ける声掛けを行っています。また、選択しやすいように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは概ね決まっていますが、その方の状態や希望によって対応をその都度職員間で話し合いながら、その方のペースに併せられるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけご自身で選んで頂けるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はご本人が好きな物を聞きそれを企画として上げて楽しんで頂くように支援しています。その時できるところは一緒に食事の準備等して頂いております。	業者から配達された食材とメニュー(調理法)が宅配され、栄養バランスを大切にしつつも個別の好き嫌いに対応しています。「杏仁豆腐が食べたい」「朝は、はちみつマーガリン」等のリクエストにも応えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用してバランスの良い食事提供ができています。摂取状況は毎回確認し、水分はゼリーなどで状態を変えて取りやすいようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自室にて口腔ケアを行い職員が介助します。週に一回歯科衛生士、月に一回歯科医師の診療があり口腔状況を観察し、清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の方も日中はトイレ誘導して排泄を試みています。気持ちよく過ごして頂けるよう心がけています。	お通じ対策として、日頃の取組みの中で押麦を食事に導入しています。介護度5の利用者も紙パンツで過ごせており、「失禁、失便をさせないようにしようよ」と声を掛け合い、2人介助でトイレに座ることが叶っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天ゼリーを提供したり体操を行うことで対応しています。また、漢方薬でお腹の動きを悪くさせないようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上入浴できるようにしており、最低でも3日に一回は入浴できるようにしています。	週2回以上を目指し、またお風呂のない日は陰部洗浄で清潔を保っています。介護度5であっても2人介助で湯に浸かる喜びを味わえ、また農家を営む家族から届いた柚子や蜜柑を浮かべる日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の生活習慣に合わせてテレビを見ながらゆっくりされている方や手作業がお好きで活動されている方がいます。寝る時間も個々の眠くなる時間に合わせて就寝介助を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更した時は申し送りを活用し情報共有しています。また、往診時に施設での状況を主治医に伝え、コントロールできるようにしています。事故防止のため薬ボックスを変更したりと全員で取り組んでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゆっくり過ごしたい方はその方のペースで生活しています。手先が器用な方が多いので作品を作ったり季節の貼り絵などをしてフロアに飾ったりしています。完成をみんなで楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様と話し希望を聞きながら毎月季節に合わせた企画を計画しています。天気の良い日は散歩などに出ています。外出企画に関してはコロナウイルスの影響で行えていません。	買い物カートを押してもらって「おやつ選ぶ」といったことが日常に溶けこんでいましたが今はできず、食べたいものを聞いて何回かに分けて職員が買い出しに出ています。また、天気の良い日は裏の畑を見たり、駐車場をぐるっと廻って外気浴をおこなっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設では預からず建て替えるようにしております。月末に精算しご家族様に請求するという対応をとっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からお手紙をもらうことがあります。その都度アルバムに挟んだり居室に飾らせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには皆様で作った季節の掲示物があり壁にはお客様の写真などを飾り居心地の良い空間にできるよう努めています。	消毒する機会を増やし、またおしぼりは濡れタオルから使い捨てのおしぼりシートに替え、食事の提供時間をずらして対面しないようにする工夫のほか、外出が減った代替としてテレビを買い替えユーチューブで昭和歌謡などを愉しめています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではお客様同士話していたり、テレビを見たり、日に当たりながら昼寝をしている方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具などをご持参いただき本人様の安心に努めています。また、写真を飾るなどご本人様・ご家族様がお好きのようにレイアウトされその方にあった空間を作っております。	写真をデコレーションして孫が届けてくれる部屋をはじめ、馴染みの家具に囲まれて過ごすことができたり、ベッドで寝ている時間が増えてもひ孫の写真に癒されたりなど、その人が浮かび上がる居室です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いフロアを活かしてホール歩行や運動しやすい環境となっています。居室で過ごす際安全についてはその都度職員で話し合いながら対応しています。		